

【2016年1月13日公開】



～丸わかり！ ロンドン発★欧州経済事情～
「松崎美子」が注目テーマを一刀両断！

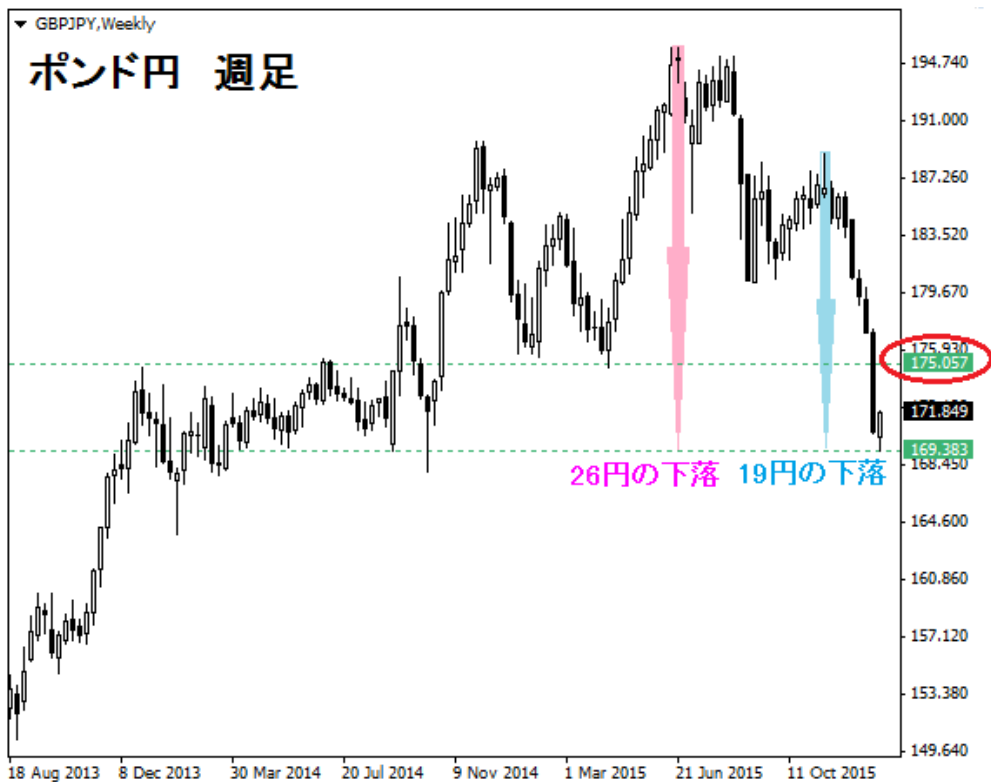
『今年旬の通貨ペア！ 英ポンド/円』



執筆者：松崎美子氏
(ロンドン在住/元為替ディーラー)



今年の相場は、動きが早だけでなく、そのタイミングが突然だ。ちょっとお昼を食べに15分くらい席を外しているうちに、とんでもない相場展開になっていることもある。FX取引をする上で、損切りと利食いをしっかり入れることは鉄則であるが、今年は特にそこを強化しなければ生き残れないかもしれない。



私が住む英国では、今年から来年にかけて EU 離脱の是非を問う国民投票（以下、国民投票）が実施される。投票結果を巡る先行きの不透明感を嫌気する形で、私自身は今年の英ポンドには弱気であった。昨年までは政策金利引き上げの期待感から買い通貨と認識していたことを思うと、180 度の方向転換である。今年は特に、英ポンドを対円、対ユーロそして対米ドルで売っていたが、さすがにスピードの早さには驚くばかりである。英ポンド/円に関しては、既に昨年末から 19 円の下落となっているが、私は 175 円台でショート・ポジションを相当数決済してしまい、下抜けしてから慌てて売り増すという失敗をしてしまった。

●今年の旬の通貨：英ポンド/円

私は、普通のマーケットでは、対米ドルでポジションを作り、クロス円はなるべく持たないようにしている。しかし、今年のマーケットは地政学リスクや中国関連のニュースで、リスク・オフになりやすい。米ドル/円は 125 円台で当面の頭打ちをしたように見えるので、対米ドルでも対クロスでも円高になりやすい一年になると予想する。

そうすると、1) 不透明感が嫌気されてセンチメントが悪い英ポンド 2) リスク・オフの円高の組み合わせは非の打ち所がない最高の通貨ペアに映ったため、私は 2016 年「旬の通貨ペア」として『英ポンド/円の売り』に興味があった。年初早々に 175 円台を下抜け、今週に入ってからは 2013 年、14 年のサポートとなった 169 円～170 円で踊り場状態を迎えている。

英ポンド/米ドル同様、英ポンド/円も一旦 169 円台で短期的な底を打ったのかもしれないが、戻りがあっても 176～178 円レベルで押さえられ、そこから 163 円～165 円ミドル、そして 160 円台までズルズルと下がると予想している。

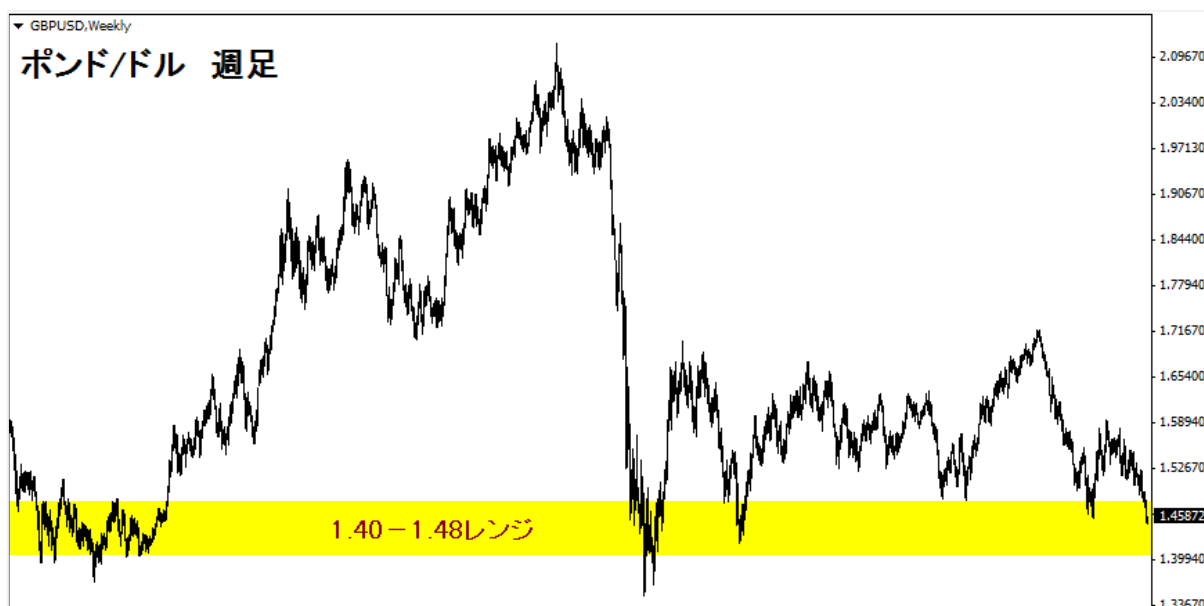


●目先のターゲットに達した英ポンド/米ドル

英ポンド/米ドルは自分が描いていた第一のターゲットである 1.44 ドル台を早々と達成した。ここからのイメージとしては、1.47 ドルミドル—1.50 ドルギリギリくらいまで戻りがあったと思うが、とにかく今年の相場は予想を立てにくい。



仮に 1.47 ドルミドルから 1.50 ドル手前までの戻りがあったとして、そこから先の動きはどうなるのか？国民投票の実施時期が判らない限り、英国を取り巻く不透明感は継続すると考えられるため、戻りを達成したあとは、黄色くハイライトを入れた 1.40 ドル～1.48 ドル台のレンジの中で神経質に動くようなイメージとして見ている。



ただし、くどいが英ポンドの下げの最大要因である「国民投票」「それにかかわる不透明感」が払拭してしまえば、全く違う動きも想定しておかなければならない。

●国民投票のタイミングと結果がすべて

新年早々、オズボーン英財務相は、今年の英国経済の行方は、「cocktail of risks（さまざまな危険要因がミックスされたカクテル）」に大きく左右されると注意を呼びかけた。ここでいう「危険要因」として同財務相は、中国・ブラジル・ロシアなどの経済減速、中東リスク、そして原油などの商品価格や世界規模の株価下落を挙げている。

しかし、今年の英国にはもうひとつの大きなリスクがある。それが「国民投票」である。法律上では2017年12月31日までに投票するという決まりなのであと2年はあるが、2017年にはフランス大統領選挙とドイツの国政選挙が予定されているため、キャメロン首相は出来るだけ2016年中に実施させたい意向である。早ければ2月中旬に開催されるEU臨時首脳会談で、英国からのEUに対する要望が聞き入れてもらえるのであれば、国民投票は6月16日に実施される公算が高まる。

あくまでも仮定であるが、6月の国民投票で「EU残留」という結果となれば、英国をとりまく先行き不透明感が一気に払拭され、英ポンドは大きく巻き戻し上昇することになるだろう。

繰り返しになるが、今年のポンドは、1) 国民投票のタイミング 2) 投票結果 の2つにより、大きく姿を変える可能性を秘めている。日本ではなかなか詳しい情報が入ってこないかもしれない。そのため、私もこのコラムで出来る限り情報提供に努めたいと考えている。

執筆者：松崎美子氏（ロンドン在住/元為替ディーラー）プロフィール】

東京でスイス系銀行 Dealing Room で見習いトレーダーとしてスタート。18ヶ月後に渡英決定。1989年よりロンドン・シティにあるパークレイズ銀行本店 Dealing Room に就職。1991年に出産。1997年シティにある米系投資銀行に転職。

その後、憧れの専業主婦をしたが時間をもてあまし気味。英系銀行の元同僚と飲みに行き、証拠金取引の話しを聞き、早速証拠金取引開始。

【本レポートの趣旨】

本レポートは松崎美子氏より発行されているレポートであり、情報提供のみを目的としております。

本レポート中のコメントは独自の見解に基づいたものであり、松崎美子氏、およびワイジェイFX株式会社共にレポート中の情報・意見等の公正性、正確性、妥当性、完全性等を明示的にも、黙示的にも一切保証するものではありません。

また、本レポート内のコンテンツ、データに関する著作権はワイジェイFX株式会社に帰属しております。

コンテンツ、データ等は私的利用の範囲内で使用し、無断転載、無断コピー等はおやめください。

さらに、かかる情報・意見等に依拠したことにより生じる一切の損害について、松崎美子氏、およびワイジェイFX株式会社は一切責任を負いません。

最終的な投資判断は、他の資料等も参考にしてご自身の判断でなさるようお願いいたします。